

株式会社 全国商店街支援センター

平成29年度 商人塾支援事業

(事業報告書概要版)

実施機関：鹿沼商工会議所(栃木県鹿沼市)

参加商店街：鹿沼市仲町商店街振興組合

久保町商盛会

まろにえ21

コーディネーター：臼井邦夫 (株)UI 志援コンサルティング

商業を核とした持続可能なまちづくり

地域・性別・年代・業種・業態を越えた連携

具体的行動に移せる体制づくり

個店の魅力向上



カリキュラム

第1回

商人塾支援事業開講にあたり(株)UI 志援コンサルティング・臼井邦夫



第2回

行動できる商店主(むつベジタブルキッチン・久保里砂子)



第3回

面的に持続する商業活動(キラキラ橘商店街・大和和道)



第4回

優れた人材がまちに集い、賑わいを創造する
(全国まちなか広場研究会・山下裕子)



第5回

個店の魅力向上について (株)ラフィネット総合企画・水井澄人



第6回

まちをリードする商業者(株)商業タウンマネジメント・東朋治)



第7回

意見交換会・卒塾論文作成(株)UI 志援コンサルティング・臼井邦夫)



第8回

卒塾式(株)UI 志援コンサルティング・臼井邦夫)

想い (なぜ、商人塾を実施しようとおもいましたか?)

西部・北部を山に囲まれ、東に県庁所在地の宇都宮市があることで商圈が限られ、市外からの新規参入者が少なく保守的な商業風土が根強い傾向にあり、新興住宅地や市外からの新規顧客獲得が後手に回ってきた。中心市街地にある病院や行政機関、「まちの駅 新・鹿沼宿」等の利用者は自家用車で移動により、ワンストップで利用目的が完結し、商店街の回遊性向上に結び付いていない。このように厳しい状況にありながら、商店街活動イコール既存の商店会組織の一部の人が決めてやるもので、自分達には関係ないという考えがあり、商店街の活性化・まちおこしといえば、一過性の人手を追う、イベント性の事業に脚光が当てられてきた。

商人塾で全国の成功事例を知ることが目的でなく、自分たちの商店の置かれた現状を認識したうえで、成功事例の裏側で誰が何を動機にどのように行動したのか学ぶことで「何を学んだかが大切ではなく、何の為にしたかが重要である」という志を体得し、商人塾終了後は塾生が各商店街で中心となり、本音で話し合い、連携し行動できるようになって欲しい。

ねらい (どういうポイントで塾をすすめましたか?)

1. 個店の魅力向上

自店を向上させる確固とした信念を有し、実践するための確かなノウハウを蓄積する。

2. 商業を核とした持続的なまちづくり

自分達のまちをより良くするために多様な民間主体のまちづくりについて習得する。

3. 地域の核となる人材の育成

議論したこと、計画したことを速やかに行動に移すことが出来る、次世代を担う人材を育成する。

4. 地域・性別・年代を越えた連携

ひとつの考えにとらわれることなく、大局的な視点を有し、少しでも大人数を巻き込めるような連携を推進する。

5. 課題の共有、ブラッシュアップ

自ら行動するだけでなく、志を同じくする仲間と課題を共有し、PDCA サイクルを循環させることで全体の底上げを図る。

コーディネーターから

(株)UI 志援コンサルティング 臼井邦夫



1. 雰囲気づくり

- ・講師に対し講話の最中後に質問の時間を設けるよう依頼し、参加者から質問や意見が出しやすいようにした。
- ・表情を柔らかくし明るい雰囲気を出すようにした。
- ・学ぶより楽しむことを勧めた。

2. 研修の質的充実

- ・講師の話から身近に置き換えてイメージを膨らませるようにした。
- ・塾生の質問意見を場に振って議論が進展するようにした。
- ・講師の豊かな経験を引き出すようにした。
- ・毎回できるだけ多くの塾生に質問や発言を促すようにした。
- ・塾生の研修に対する理解を含めるため、講師に適時質問、解説などを行った。

3. リーダー意識の醸成

- ・塾生に「選ばれし者」の意識を植え付け地元商店街でリーダー的役割を担うよう奨励した。

今後に向けて

(商人塾を受けて変わったこと・起きたことは？)

商人塾の成果を今後どのように活かしていきますか？)

1. 具体的な成果や変化

- ・塾生が連携して店舗ディスプレイの改善やライトアップなどを進めている。
- ・まちゼミ、100円商店街といった面的な商店街活動の中心になり、情報の共有、発信、新規参加者への声掛けなどを積極的に行っている。
- ・店や、商店街、市民のために、自分たちで「まちづくり会社」を設立しようという要望が具体的に出てきており、具体的な行動に移せるよう、全国の専門家や外部機関との連携も視野に支援を行いたい。
- ・年代、性別、地域を越えて連携し、大局的視点を持ち、自ら考えて行動しようという声が高まってきた。

2. 今後に向けて

(1)まちづくり

昭和31年設立の鹿沼市商店会連合会、町内単位で実施されてきた商店会活動の流れを継承したうえで、全国商店街支援センターの支援により平成26年1月にスタートした県内初の「まちゼミ」事業など地域・性別・年代を越える商業施策が展開されつつあ

る。この流れを拡大するために、以下の 2 点の策を中心として、まちづくり会社の設立も視野に次年度以降の事業展開を図る。

① まちづくり会社設立のための自主研修会

- ・まちや自店の課題について、商業者自らが研修会を開催する。
- ・商人塾支援事業講師と SNS 等を活用し個々人が交流を継続し、今後の商店街活動の布石となる行動をする。

② 鹿沼商工会議所による支援

地域間連携の推進・新たなまちづくり事業の支援を行っており、次年度も 400 千円の予算を計上している。個店の魅力向上、商業者の組織化、商店街の活性化、まちづくり会社の設立に向けた勉強会を開催し支援する。

(2) 個店の魅力向上

① 「まちゼミの為のまちゼミ」

鹿沼まちゼミ参加商店主限定のまちゼミを各店で平成 28 年 10 月から毎月開催している。この研修は会場設営から案内まで全て自主的に行っており、この流れを継続する。

② 商工会議所などによる支援

行政、(株)全国商店街支援センター等との連携により、外部講師を招聘し研修会を開催する。また、鹿沼商工会議所の経営支援施策を中心に、経営指導員職員による支援も行う。

卒塾生代表

(商人塾で得たことは?)

赤羽根正浩 もみとほぐしのとんぼ(「まろにえ21」商店街)



- ・自己資金がないことを理由に行動しなかったが、それは言い訳に過ぎなかった。
- ・意欲ある商店主が one for all, all for one の精神で行動し、試行錯誤で答えを模索する大切さを学んだ。
- ・当事者意識を持てなかった商店街活動を見直し、更に全体的な視点を持てるようになった。
- ・個店の魅力を向上させるために「感性に訴える」という新たな発想を得ることが出来た。